

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531212

研究課題名(和文)現代韓国における道徳科カリキュラム改革の分析的考察

研究課題名(英文)The study on moral education curriculum in modern Korea

研究代表者

関根 明伸 (SEKINE, Akinobu)

国土舘大学・体育学部・准教授

研究者番号：10364449

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、韓国の「第7次教育課程」から「2012年改訂教育課程」のカリキュラムの分析を試みることで、道徳科の教科原理を探るとともに、わが国への示唆点を見出すことを目的とした。その結果、第一に、わが国の道徳学問的に理論的かつ実践的な研究を進めて高めるためには教育学的な研究のアプローチと実践の蓄積が求められること、第二には、「現代的課題」の導入と検その討が求められることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study is to find a suggestion point by analyzing a curriculum of the moral education of Korea. Firstly a study of the subject pedagogy is necessary for moral education of our country. Secondly it is important that I carry out "a modern problem".

研究分野：道徳教育

キーワード：韓国の教育 道徳教育 道徳カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

戦後の韓国の道徳教育は、1973年に特設「反共・道徳生活」が教科「道徳」に昇格することにより今日まで教科教育として展開し、発展してきた。一方、わが国では1958年以降、「道徳」は教科外に特設され、特設「道徳」として継続的されてきた。こうした位相の相違はあるものの、両国では極めて近い道徳教育を展開されてきたといえる。しかし、教科教育学的な研究と実践が進められてきた韓国に対し、教科でないわが国では、「道徳」に対するカリキュラムや教材に関する本質的な研究が停滞したままであった。道徳教育の充実が叫ばれる現在、教科教育学的あるいは比較教育学的視座からの本質的研究が切に求められる段階にある。

2. 研究の目的

近年、韓国では1997年の「第7次教育課程」から教育内容に「現代的課題」が登場するとともに、それまで約7～10年毎に改訂されていた教育課程は、「2007年改訂教育課程」から随時改訂の方針に変更された。中等教育では検定教科書も導入され、現在、韓国の道徳教育改革は新しいステージに入ったといえる。

そこで本研究では、韓国の「第7次教育課程」および「2007年改訂教育課程」、そして「2012年改訂教育課程」のカリキュラムと教科書の分析を試みることで、わが国における道徳教育への示唆点を見出すことを目的とした。1997年～現在までの時期を対象とし、カリキュラムの変容過程を歴史的・理論的に究明することで韓国・道徳教育の本質を明らかにしようとした。

3. 研究の方法

本研究では、次の二点から課題追究を行なった。まず縦的研究としては、「第7次教育課程」から「2007改訂教育課程」、そして「2012年改訂教育課程」までの時期について、各時期に「道徳」がどのようなカリキュラムの内容と原理で策定されたのか、各カリキュラム

と教科書の一次資料を収集・分析し、道徳科の教科教育の原理について明らかにした。横的研究としては、(1)韓国研究者との研究交流、(2)近年のわが国の道徳教育改革動向との比較研究、(3)韓国の検定教科書と日本の道徳資料との比較の3点から特質を明らかにした。

4. 研究成果

(1) 従来のがわが国の道徳教育に関する研究は、教育行政や政策に関わる一般教育史的な立場からの研究が主流であり、これまでは教育行政的視点や教育思想的史的、あるいは個別の実践家による方法論的な教育実践研究の側面でしか捉えられてこなかった。

これに対して、本研究では、戦後に「修身」の廃止と社会科教育を通じた道徳教育の展開、1960年代は社会科から「反共・道徳生活」時間の特設への展開、さらに1970年代以降では教科教育の道徳教育を進めてきた韓国の「道徳」に着目した。これまで制度史や政策史等の視点から論じられがちであった韓国の道徳教育について、1997年の「第7次教育課程」から「2012年改訂教育課程」までを対象に、教科教育学的視座からカリキュラムと教科書の変容を分析することで、内在的な固有の論理と特質を明らかにしようとし、ひいてはわが国の道徳教育に資する示唆点を探ろうとした。

(2) 本研究で明らかになったのは、以下の点である。

第一に、韓国では初・中・高を貫く体系的な道徳教育が構想されている点である。韓国では1950代から約7～10年に一度ずつ全面改訂が繰り返され、それにもとづいて各教科の目標や内容、教科書等が変更されてきた。近年では「第7次教育課程」(1997)が内容と規模において大きな分岐点となっており、6・3・3・4制や各教科の枠組みを維持しながら、高校卒業までの12年間を前半の「国民共通基本教育課程」(初等1年～高校1年)と後半の「選択中心教育課程」(高校2～3年)

の二段階に再構成し、教科のカリキュラムを縦断的に再編して内容の一貫性と系列性を追求し、基礎力の充実と初・中・高における非連続性と非効率性との課題を克服しようとしたのである。道徳教育では、「国民共通教育課程」に含まれる「正しい生活」(初等1~2)と「道徳」(初等3~高1)そして「選択中心教育課程」(高2~3)の「倫理と思想」「生活と倫理」「伝統倫理」により、高校までの一貫した道徳教育のカリキュラムが準備されている。

現行「教育課程」と初・中・高の道徳教育関連教科の関係を示すと以下の通りである。

表1 「教育課程」と道徳教育関連教科目

	初等学校		中学校	高等学校
学年	1 2	3 4 5 6	1 2 3	1 2 3
関連教科目	「正しい生活」	「道徳」		「生活と倫理」(選択) 「倫理と思想」(選択)
教育課程	共通教育課程			選択教育課程

第二に、こうした「教育課程」改訂にもとづく改革の動きは2000年移行急速に進められており、道徳教育の改革も同時に加速している点である。「2007年改訂教育課程」(2007)の全面改訂、「2009年改訂教育課程」(2009)および「2011年改訂教育課程」(2011)そして「2012年改訂教育課程」(2012)以下、「2012年版」と記す)の部分改訂を経ながら現在に至るが、特に「2007年改訂教育課程」では大きな変更があった。初等学校1年~中学校3年の義務教育段階が「共通教育課程」へ、そして高校が全て「選択教育課程」へと変更され、全体の大きな枠組みが再度修正されたのである。また、高等学校の道徳教育関連科目は「生活と倫理」「倫理と思想」の2科目へ縮小され、中等教育の道徳教育関連の教科書は検定教科書へ変更されたことも大きな変更点である。

第三に、2007年以降の動向で注目されるのは、現実的かつ多様な道徳的課題を扱うこ

とで、「感受性と思考力および判断力を形成」させ、道徳的理解と実践力の育成を強調している点である。たとえば「2012年版」の「道徳」には、「道徳科は多様な道徳的問題に対する省察と探究を通して生徒に正しい判断力と道徳的特性および望ましい価値観を確立させるとともに、各自が自律的で総合的な人格を形成するよう教育することに力点を置いている。」とある。また、「道徳科は人生の中で起こるような多様な道徳問題を体系的に扱う。」として、現代的な道徳的課題が積極的に組み込まれている。

以下は、初等5,6年および中学校1~3年の内容項目である。

表2 初等5~6年の「道徳」の内容

	内容項目
道徳的主体としての私	(ア)感情の管理と表現 (イ)自分の行動に対する責任感 (ウ)誇りと自己啓発 (エ)節制する生活
私達・他の人・社会との関係	(ア)情報社会での正しい生活 (イ)目上の人に対する礼節 (ウ)配慮し奉仕する生活 (エ)対話と葛藤の解決
社会・国家・地球共同体との関係	(ア)人権の尊重と保護 (イ)法と規則の遵守 (ウ)共同体意識と市民の役割 (エ)公正な行動 (オ)私たちが追求する統一の姿 (カ)地球村時代の人類愛
自然・超越的存在との関係	(ア)真のすばらしさ (イ)愛と慈悲

表3 中学校1~3年の「道徳」の内容

	中学校1~3年の内容項目
道徳的主体としての私	(ア)道徳の意味 (イ)生の目的と道徳 (ウ)道徳的省察 (エ)道徳的実践 (オ)人間存在の特性 (カ)自律と道徳 (キ)道徳的自我性 (ク)勉強と進路 (ケ)道徳的探究
私達・他の人・社会との関係	(ア)家庭生活と道徳 (イ)友人関係と道徳 (ウ)サイバー倫理とマナー (エ)近隣に対する配慮と相互協同 (オ)他の人を尊重する態度 (カ)平和的解決と暴力の予防
社会・国家・地球共同体との関係	(ア)人間の尊厳性と人権 (イ)文化の多様性と道徳 (ウ)分断の背景と統一の必要性 (エ)望ましい統一の姿

	(カ) 社会正義と道徳 (キ) 個人の道徳的生と国家の関係 (ク) 国家の構成としての望ましい姿勢 (ケ) 世界化時代のわれわれの課題
自然・超越的存在との関係	(ア) 環境親和的な生 (イ) 生の大切さと道徳 (ウ) 科学技術と道徳 (エ) 文化と道徳 (オ) 心の平和と道徳的生 (カ) 理想的な人間と社会

最後に、わが国の道徳教育への示唆点として以下の点をあげることができる。第一に、教科教育学的な視座からの道徳教育研究の必要性である。韓国の道徳科は、1963年の「反共・道徳生活」が「特設」された時点で事実上の教科化を達成し、教科的性格を備えている。一方、わが国の「道徳」は「特設」であったため、学習指導要領上の曖昧さが学問的かつ理論的な追究を阻む一つの要因となり、教科教育学的な検討が充分になされていない。したがって、「道徳」の教科化を機に、学問的に理論的かつ実践的な研究を進めて高めるために、今後は教育学的な研究アプローチと成果の蓄積が求められる。

第二に、「現代的課題」の導入とそのための検討が望まれる。韓国の「道徳」の内容は、「道徳的主体としての私」「私達・他の人・社会との関係」「社会・国家・地球共同体との関係」「自然・超越的存在との関係」の四つの領域に区分されており、これはわが国の四つの視点とほぼ同様である。わが国と共通する価値項目も多い。しかし、初等学校3～4年の「インターネットのマナー」や5～6年の「情報社会での正しい生活」、中学校の「環境親和的な生」「平和的解決と暴力の予防」のように、現実的な現代的課題が取り入れられている点はわが国との大きな相違点である。ようやく「現代的課題」に正対しようとするわが国においても、こうした韓国の道徳教育の発想や実践から示唆される点は少なくないのではないかと。

今般の教科化が意義ある歴史的なものとなるためにも、韓国の成果と課題には注目し

つつ、わが国独自の「道徳科」の在り方を追求し、デザインしていく姿勢が強く求められている。「道徳」を教科教育の枠組みに整理し直し、これまでの「良さ」も継承しながらも、子どもの実態や現実的で現代的な課題に即した内容も取り入れることは、道徳教育を問い直し、活性化していく大きな契機となると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

関根明伸、現代的課題に向き合う道徳教育の方向性 韓国・道徳科の事例を中心に、日本道徳教育学会誌 道徳と教育 第59号、査読有、2015、129 - 135

関根明伸、現代的課題に向き合う道徳教育の必要性、明治図書、道徳教育 2014年11月号、査読無、2014、68 - 70

関根明伸、韓国の国公立高等学校における宗教教育の現在 「倫理と思想」の教育方法学的検討、武蔵野大学教職課程年報第21号、査読有、2014、2 - 15

関根明伸、韓国の国公立高等学校における宗教教育の現在 「倫理と思想」科目を中心に、中央教育研究所、第81号、査読無、2014、52 - 69

関根明伸、韓国における宗教教育の動向 「教育課程」にみる宗教教育科目 中央教育研究所、学校にかかわる教育」の研究、査読無、第78巻、2013、36 - 49

〔学会発表〕(計7件)

教科としての「道徳」の方向性 現代的課題を中心に、東北教育学会、2015年3月7日、東北大学

諸外国を参考に「特別の教科 道徳」を設計する(2) 韓国の道徳科から、日本道徳教育学会、2014年7月5日、昭和女子大学

道徳の教科化に関する総合的研究(4) 教員養成を中心に(韓国の事例から)、日本道徳教育学会、2013年11月3日、札幌国際大学

韓国の高等学校における宗教教育の現在 「倫理と思想」科目を中心に、韓国日本近代学会、2013年10月26日、沖縄国際大学

韓国における宗教教育の現在 高等学校
「宗教学」科目、東北アジア文化学会、
2013年5月4日、台湾・開南大学

韓国における宗教教育の動向 「教育課程」にみる宗教教育科目、2012年10月28日、日本道德教育学会、鳥取大学

日韓道德教育カリキュラム比較研究、日中道德教育対話集会、2012年9月18日、北京師範大学

〔図書〕(計7件)

関根明伸 他、日本弘道会・日本道德教育学会「韓国の道德教育」『近代日本における修身教育の歴史的研究 戦後の道德教育までを視野に入れて』、2015、453 (367 - 376)

関根明伸 他、教育出版、「韓国の道德教育から考える」『道德の時代をつくる!』、2014年、149 (94 - 101)

関根明伸 他、教育出版、「座談会 『特別の教科 道德』のカリキュラムと評価を考える」『道德の時代をつくる!』、2014年、149 (94 - 101)

関根明伸 他、育鵬社、「解説 中学生が学びたい日本の偉人 六つの授業の特徴と課題」『学校で学びたい日本の偉人』、2014、286 (272 - 278)

関根明伸 他、教育出版、「教員養成の在り方を考える」『道德の時代がきた!』、2013年、143 (71 - 76)

関根明伸 他、教育出版、「韓国の道德教育から何を学ぶか」『道德の時代がきた!』、2013年、143 (89 - 96)

関根明伸 他、教育出版、「座談会 道德の教科化で拓く教育の可能性と課題」『道德の時代がきた!』、2013年、143 (114 - 137)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

関根明伸 (SEKINE, Akinobu)
国土館大学・体育学部・准教授
研究者番号: 10364449